

保健医療福祉行政論	3 年・後期	1 単位	准教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32310463

1. 授業のねらい・概要

社会保障論で学んだ保健・医療・福祉に関する諸制度と現状の基礎知識を基に、国と自治体の行政についての学びを深める。
また、疾病、生涯、高齢などにより、健康弱者となっても安心して暮らせる社会を支える保健医療福祉行政とはいかにあるべきかについて考える。

2. 学修の到達目標

1. 保健医療福祉関連の法律や制度について知識や理解を深める。
2. 国民医療費、高齢者医療・介護費の現状を知り、今後の問題・課題を考察できる。
3. 福祉の国際比較、国民負担について理解し、日本が抱える今後の問題を展望できる。

3. 授業の進め方

社会保障・社会福祉の知識は、援助対象者のためだけのものではなく、それぞれの人生に深く関わっている。知識があるかないかで、自分自身や家族の生活の質にも影響する。今日の動向を概観しつつ、社会保障、医療保障、所得保障などについて、その背景にある問題を分析・考察し、諸外国の制度と比較しつつ、諸制度の今後のありかたについて考え、今後の課題を展望できるように授業を進めていく。

4. 授業計画

1. 保健医療福祉行政の変遷
2. 保健医療福祉行政の理念としくみ
3. 保健医療福祉に関する制度 ①社会保障制度と公衆衛生行政
4. 保健医療福祉に関する制度 ②地域保健の制度
5. 保健医療福祉に関する制度 ③社会福祉の制度 ④医療の制度
6. 保健医療福祉に関する制度 ⑤介護保険制度
7. 保健医療福祉に関する制度 ⑥行政における保健師活動と期待される役割
8. 保健医療福祉行政の計画と評価

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70%、課題レポート30%で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：平林勝政、小西知世、和泉沢千恵（2019）：ナーシング・グラフィカ 健康支援と
社会保障④ 看護めぐる法と制度 株式会社メディカ出版

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲内について、キスト内容の熟読し、復習（60分）程度を行うこと。
受講後は講義内容をノートにまとめる復習（60分）を実施すること。

8. 受講上の留意事項（先修条件があればこの項に入れる）

テキストの指定された範囲を読んだうえで授業に臨みましょう。また、日常的に新聞やニュースを通して、国の政策や予算など政治・経済・社会問題について知識を得ておくこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答などを説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。